

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 電話052-261-1781(代表)
郵便物送付先 お問合せ先	〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-707-842 (その他のご照会) ☎0120-707-843
同取次所	日本証券代行株式会社 本・支店
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

ホームページをリニューアルしました

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



KANEFUSA

株主・投資家の皆様へ

第61期中間報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

第61期 中間報告書 Contents

- 1 株主の皆様へ
- 3 SPECIAL ISSUE : 特集
兼房のフィールド
- 5 営業の概況
- 6 新製品情報
- 7 連結財務諸表
・連結貸借対照表
・連結損益計算書
・連結キャッシュ・フロー計算書
- 9 海外現地法人紹介
・中国
・昆山兼房高科技刀具有限公司
・昆山兼房精密刀具有限公司
- 10 Information
・会社概要
・役員
・株式の状況

免責事項

本中間報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することとは控えるようお願いいたします。



取締役社長

渡邊 将人

厳しい環境下ですが、
今やるべきことを着実に進めれば、
結果は後からついてくるはず

Q 今年度上半期の業績について お聞かせください

このところの経済混乱や円高傾向などで、当社も厳しい環境下にあります。しかし、幸いにしてこれまで続けてきた「非住宅分野へのチャレンジ」と「グローバル化」がダメージを小さくしてくれました。特にグローバル展開に関しては、国内のマイナス分(前年同期比7%ダウン)を海外のプラス分(前年同期比11%アップ)が埋めてくれた感があります。

上半期の推移をエリア別に見ると、アメリカは為替の影響もあってマイナス6%となりました。ヨーロッパは32%アップ、新規の案件も増えており、アメリカの分も補って余りある成長を遂げました。アジア全体では6%アップ、インドネシアが堅調な推移であったのに対し、中国は2ケタ成長を遂げました。中国でつくって、海外へ輸出する流れが定着してきたとも言えるでしょう。総じて厳しい市場環境の中、減収ながらも経常利益では増益に落ち着いたのは幸いでした。

Q 中期経営計画2年目の年、 事業部制を実施して 2年目の年でもありますが、 その進捗は？

ビジネスは苦しまなければモノにならないと思うんです。事業部制にして、それぞれのトップが社長のつもりでがんばってほしい、こうした厳しい環境下のときにこそ、構造改革をしなくてはならない…そうした気持ちで取り組んでいます。たとえばカッター事業部は、元来住宅産業がメインマーケットでした。それが非住宅分野の開拓に軸足を移動させた。新しい分野を相手に新しい設備を使いこなしていく…まさに「生みの苦しみ」を味わっている状態です。金属用高精度工具事業に関しては、現在モニタリングをしながら準備をしている段階です。来年には新しい工場を建てて体制を整えていく予定です。このあたりは10年先、20年先のカネフサのために、できることを今やっておきたいという感じでしょうか。

Q 先行き不透明感が増す中、 この難局にどのような対応を お考えですか？

基本的に進路変更はありません。グローバル展開の拡大と非住宅分野への積極的な参入が当面の二本柱になります。来年、BRICsに販売会社を設立するプランを現在進めています。また、中国にも販路拡大の拠

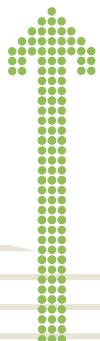
点をおく予定です。景気の不透明感は確かにありますが、なによりもカネフサの製品を絶対に必要として頂いているお客様がいらっしゃるわけですから。ありがたいことに海外でも「いつかはカネフサの製品を使ってみよう」という声が聞こえてきました。そうしたお客様のためにも、グローバル化はいつそう進めていきたい。非住宅関連では自動車産業・鉄鋼を中心に金属の二次加工や非鉄金属、製本・印刷関係は市場の可能性を探りながら、徐々に事業を広げていくつもりです。

Q 今後の事業展開の抱負について お聞かせください

本当に強い企業は社員の心がひとつになって、高い目標に向かっていく姿勢を持てる会社だと思うんです。当社の会議室にも「和ヲ以テ尊シト為ス」という言葉が飾られています。ひとりひとりの個性が尊重される現代では時代遅れと言われるかもしれませんが、しかし、インドネシアや中国の工場で皆と一緒に仕事をしていると、チームワークの大切さをあらためて思い知らされます。厳しい世の中になればなるほど、この協調マインドこそが貴重な経営資源となるはず。事業部制を定着させ、グローバル化を展開しながら、新しい分野を開拓し、カネフサのブランド力を一層伸ばしていきたい。そして株主の皆様と一緒に利益を共有できる企業にしていきたいと考えています。

様々な産業に広がる、兼房のフィールド

住宅用建材の切削用からスタートした兼房の切削工具。
今でも住宅産業は当社のビジネスの中心ですが、
その優れた技術力が評価され、
様々な産業へと活躍のフィールドを広げています。



活躍のフィールド



住宅関連産業



住宅関連産業では住まいのあらゆる部分に切削工具が使用されています。長年の技術の蓄積と先進技術によって様々な切削条件、加工方法に応じて高精度で超寿命の切削工具をご提供いたします。



鉄鋼・非鉄関連産業



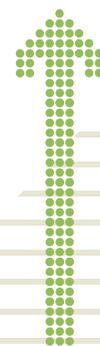
合金鋼、調質鋼、ステンレス鋼および銅、アルミニウム等の非鉄金属材料まで各種金属の切断に抜群の耐久性で精密な切断加工を実現いたします。



製本・印刷関連産業



製本、紙工、製紙過程で使用されるあらゆる切削工具を取り揃えています。超硬合金や熱処理などの独自技術により製作された耐久性の高い切削工具をご提供いたします。



拡がるフィールド



自動車関連産業



自動車を構成する様々な部品には切断、成型、仕上げ加工等の製造工程があり切削工具が活躍しています。鉄鋼、非鉄、樹脂、ゴム、複合材向けに当社の総合力を結集しアイテムの充実を図っています。



IT関連産業



液晶画面を構成する各種フィルム、PC、携帯電話等の樹脂部品の仕上げ加工に切削工具が活躍しています。耐久性、加工品質向上に効果を発揮する製品アイテムをご提供いたします。



航空機関連産業



航空機本体に使用されるアルミ、ジュラルミン、炭素繊維樹脂等の加工に対し様々な切削条件、加工方法に応じた技術を結集し、高性能な切削工具をご提供いたします。

こんな意外なところにも…

システムキッチンや洗面化粧台などに使用されている人造大理石、FRP（繊維強化プラスチック）製のユニットバスなどの樹脂部材も当社のダイヤモンドチップソーやダイヤモンドビットで高品位に仕上げています。



営業の概況

概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油、原材料価格高や、海外経済全体の減速による輸出の増勢鈍化の影響を受け企業収益が減少するなど、景気の下振れ懸念は一段と高まってまいりました。一方、世界経済を見ましても、アジアでは、拡大が続いておりました中国におきましても成長が鈍化しつつあり、米国では金融危機を発端とする信用収縮の影響などから景気の停滞感は強まっており、欧州でも減速傾向が鮮明となってまいりました。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業におきましては、新設住宅着工戸数が改正建築基準法施行の影響による落ち込みからは回復してきたものの、依然低水準で推移し、引き続き厳しい状況となりました。

売上高

当社グループは金属切断用丸鋸、製本紙工用刃物などの非住宅関連刃物やグローバル市場での販売拡大を目指し、戦略的な生産、営業活動を展開いたしました。

これにより、海外における売上は、アジアでは製紙用刃物、合板用刃物などが順調に伸び、アメリカでは金属切断用丸鋸、製紙用刃物が増加、ヨーロッパでは金属切断用丸鋸、製本紙工用刃物を中心に好調に推移したため、全体として増加いたしました。国内における売上は、住宅関連刃物の需要が大きく落ち込み減少となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は83億8千8百万円となりました。

経常利益

利益面につきましては、原材料価格の高騰などのコストアップ要因がありましたが、グループ全体での生産効率向上に努めた結果、営業利益は9億4千8百万円となりました。また、経常利益は為替差益を計上したことなどにより10億1千5百万円、四半期純利益は6億2千1百万円となりました。

通期の見通し

通期の連結業績としましては、売上高160億円（前年同期比4.5%減）、経常利益13億2千万円（前年同期比11.1%減）、当期純利益8億1千万円（前年同期比11.9%減）を見込んでおります。

売上高



経常利益



四半期(当期)純利益



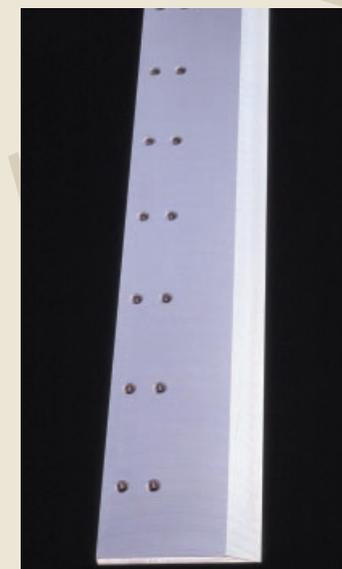
総資産・純資産



新製品情報

スプレnderプラス (ハイス断裁包丁)

日本古来の伝統技術である刃の製造方法により、使用される刃先だけに耐摩耗性を向上させた高級ハイスを適用しました。鋼材価格が高騰するなかで、従来よりも切れ味と寿命を向上させながら、ハイスの使用量を15~20%とし、レアメタルの利用を大幅に削減した製紙用断裁包丁です。



連結財務諸表

流動資産

前期末と比べ2億9千3百万円増加し、131億3百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少しましたが、有価証券が増加したことなどによります。

固定資産

前期末と比べ1億5千7百万円増加し、107億4千4百万円となりました。これは主に、建物や機械装置に対する設備投資増により建設仮勘定が増加したことなどによります。

負債

前期末と比べ3億1千2百万円増加し、50億7千1百万円となりました。これは主に、未払法人税等や設備購入支払手形が増加したことなどによります。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期末 平成20年9月30日現在	前期 平成19年9月30日現在
(資産の部)			
流動資産		13,103,916	12,810,196
固定資産		10,744,507	10,587,100
資産合計		23,848,424	23,397,296
(負債の部)			
流動負債		3,750,206	3,330,791
固定負債		1,321,045	1,427,765
負債合計		5,071,252	4,758,556
(純資産の部)			
株主資本		18,445,891	18,048,335
評価・換算差額等		331,280	590,404
純資産合計		18,777,171	18,638,740
負債純資産合計		23,848,424	23,397,296

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	前第2四半期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
売上高		8,388,400	8,475,799
売上原価		5,261,446	5,332,559
売上総利益		3,126,953	3,143,239
販売費及び一般管理費		2,178,645	2,232,350
営業利益		948,307	910,889
営業外収益		82,754	40,383
営業外費用		15,701	53,499
経常利益		1,015,360	897,773
特別利益		2,034	167,001
特別損失		11,555	23,645
税金等調整前四半期純利益		1,005,839	1,041,129
法人税、住民税及び事業税		334,466	325,477
法人税等調整額		49,700	59,470
四半期純利益		621,673	656,181

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	前第2四半期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,066,595	897,050
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,720,889	△925,094
財務活動によるキャッシュ・フロー		△139,226	△194,659
現金及び現金同等物に係る換算差額		△24,656	20,108
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		△818,177	△202,594
現金及び現金同等物の期首残高		3,920,062	3,292,901
現金及び現金同等物の四半期末残高		3,101,885	3,090,306

飛躍を続ける中国に 平成14年9月に 生産子会社を設立

日系企業をはじめ、中国国内企業にカネフサの
技術とサービスをご提供しております。

同時に、カネフサブランドの欧米への発信拠点
ともなっております。

平成15年6月には再研磨サービスセンター
「昆山兼房精密刀具有限公司」を設立しました。

●昆山兼房高科技刀具有限公司

●昆山兼房精密刀具有限公司

江蘇省昆山経済技術開発区東部工業区珠竹路50号
TEL+86-512-57875072 FAX+86-512-57875073



Information

会社概要 (平成20年9月30日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	584名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 名古屋 東京 大阪 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア <small>(注)平成20年12月1日、名古屋支社の名称を中部支社へ変更を行いました。</small>
子会社	P.T.カネフサインドネシア カネフサUSA INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 昆山兼房精密刀具有限公司 大口サービス株式会社

役員 (平成20年9月30日現在)

取締役会長	渡邊 浩	取締役	藤吉 芳久
取締役社長	渡邊 将人	取締役	富田 律男
専務取締役	太田 正志	取締役	平子 哲朗
常務取締役	溝口 忠夫	取締役	西尾 悟
常務取締役	板谷 精三	常勤監査役	柳瀬 敏行
常務取締役	稲葉 公男	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

株式の状況 (平成20年9月30日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,795名

■大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
大口興産株式会社	2,229	16.5
渡邊 裕子	1,041	7.4
太田 万佐子	1,021	7.3
渡邊 浩	1,000	7.1
渡邊 美奈子	925	6.6
兼房従業員持株会	867	6.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	614	4.4
渡邊 将人	404	2.9
太田 正志	377	2.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	217	1.5

(注)上記のほか、当社は自己株式408千株を保有しております。

■所有者別株式分布状況

